

「今和泉小学校の棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

指宿市立今和泉小学校

2 学年・人数

5年生（計16人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

新型コロナ感染症予防の為、本年度は未実施

(2) 発表の日時・場所

新型コロナ感染症予防の為、本年度は未実施

※ 例年3年に1度、3地区持ち回りで秋季大運動会時に発表

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

- ・ チョイノチョイ（小牧地区）
- ・ 岩本棒踊り（岩本地区）
- ・ 新西方棒踊り（新西方地区）

(2) 由来

- ・ チョイノチョイ

島津第17代当主の島津義弘が、文禄の役と慶長の役に参戦した際、無事に凱旋した祝いとして踊られたといわれている。

- ・ 岩本棒踊り

島津家第21代当主島津吉貴の子、因幡三郎忠郷を敬愛する農民たちが、病弱な領主を慰めるために棒踊りを踊ったといわれている。

- ・ 新西方踊り

田植え前後の豊作祈願であったらしいが、その後、神社の祭りや諸行事に踊られるようになった。

(3) 構成等

- ・ チョイノチョイ

2人1組の前後2列で踊られる。左側は赤色の帯を、右側は黄色の帯をつける。片方に扇、もう片方に肩をもち、両手を高く上げたり両手を広げながら回ったりする所作がある。頭には「つの」と呼ばれる厚紙を両端にはさんで鉢巻を巻く。鼻筋に白色の線を一本入れる。

- ・ 岩本棒踊り

六尺棒と三尺棒を使って踊る。2列で入場し6人1組で踊る。1番と2番は各組中央の踊り手が六尺棒を持ち、両隣の踊り手が棒を払いのける。3番は六尺棒を三尺棒に持ち替えて各組の前列と後列が入れ替わって棒を交差させたり、首をかしげたりする所作がある。

- ・ 新西方棒踊り

六尺棒と三尺棒を持った6人が1組となり、前後左右に入れ替わりながら棒を打ち合う。4番まであり1～4番まですべて踊りが違う。衣装に白色・赤色・青色の3色のたすきをかけて踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

それぞれの地域の保存会が中心となって練習等を計画し、それぞれ活動を行っている。学校等で棒踊りについての講義を開く際は、校区公民館が郷土芸能保存会に連絡をし、それぞれの保存会の担当の方が来校されて、講師となって学習を進めている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

以前から小学校の運動会で3地区がそれぞれ持ち回りで踊りを披露していた。5年前から5年生が総合的な学習の時間の単元「地域の棒踊りについて調べよう」という学習を進め、保存会の方に来校していただき、由来や衣装、保存会の方々の思いなどを聞き、新聞にまとめている。

また岩本地区と新西方地区の棒踊りについては、運動会で披露する年（3年に1度）8～9月の週2～3回、保存会の方と練習し、校区の文化祭等でも披露している。小牧地区のチョイノチョイは毎年8～9月の週3回練習をし、校区の敬老会や市の文化祭等で披露している。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



小牧地区チョイノチョイ



岩本地区棒踊り



新西方地区棒踊り

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【5年生児童】

踊っている時は、振付が難しくてなかなか覚えることができなかったが、歌詞や衣装の意味、踊りの由来を聞くことで、棒踊りに興味をもつことができた。

【教職員】

今年は感染症の予防の影響で見ることができなかったが、毎年各地区の伝統を引き継ぐために、2か月間も週2～3回練習に取り組んでいただいていることに感謝している。子供たちも棒踊りが大好きで、踊れることに誇りをもっている。ふるさとの郷土芸能を通して、この今和泉のことをもっと好きになってほしいと願っている。

【保存会から】

各地区で3年に1度運動会で披露することで、練習を行うことができている。子供たちに教えることで、今和泉の子供たちに伝統芸能を知ってもらい、大人になってから、自分たちの子供にも受け継いでほしいと考えている。子供だけでなく若い人も練習に参加しており、これからはずっとこの踊り続けてほしいと願っている。

【地域の方から】

棒踊りやチョイノチョイの練習を通して、親の世代だけでなく孫の世代とも深く関わり一緒に活動することはすばらしい。地域一丸となって子供たちを育てるといった土壌が育まれていると感じている。今後もこの取組を続けてほしい。